

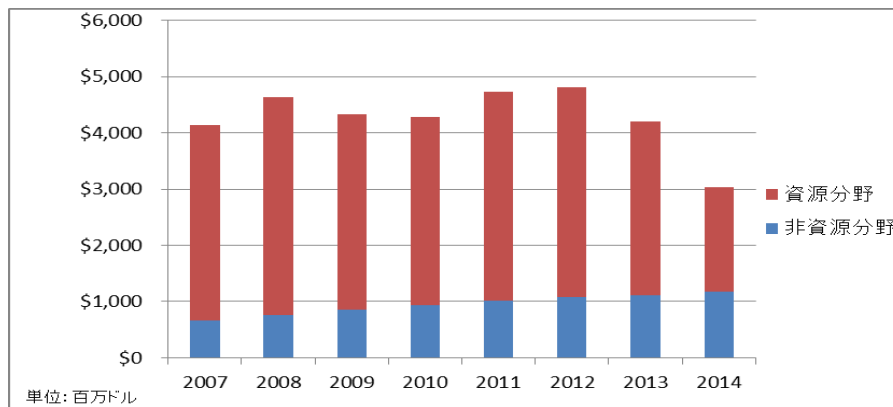
東ティモール経済情報

I マクロ経済の現状

1. 経済成長の動向

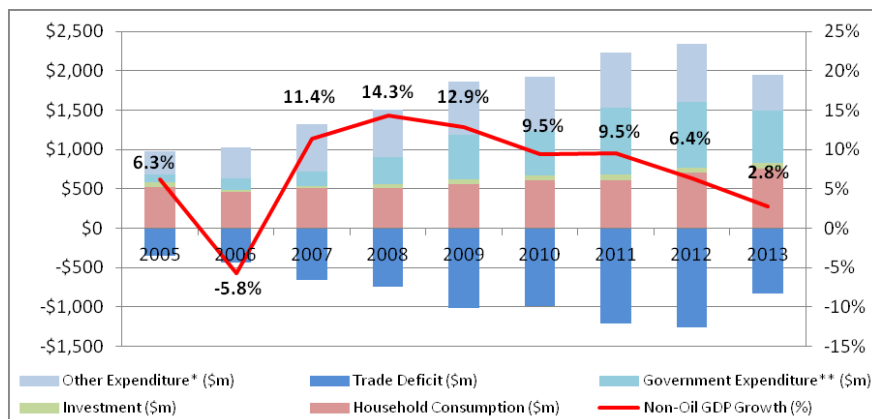
- ・2004 年から天然ガス及び石油開発が本格化し、例年国家歳入の約 9 割を資源収入に依存する資源国であるが、2014 年 9 月以降は石油価格の低迷により歳入が減少傾向にある。
- ・天然資源以外の輸出ではコーヒーが約 9 割を占めるモノカルチャー経済のため、国内産業の多角化が課題であり、農業や観光業等の発展を目指している。そのため、飛び地のオエクシ県を経済特区に指定し、同地域への外資系企業の誘致にも力を入れている。
- ・天然資源からの収入減少を考慮し、政府歳出の目安となるベンチマークが設定されているが、例年ベンチマーク以上の支出が実施され、近年は基本インフラへの歳出が増加しており、持続可能な天然資源の利用が懸念されている。

1-1 セクター別実質 GDP(資源及び非資源セクター)2007-2014



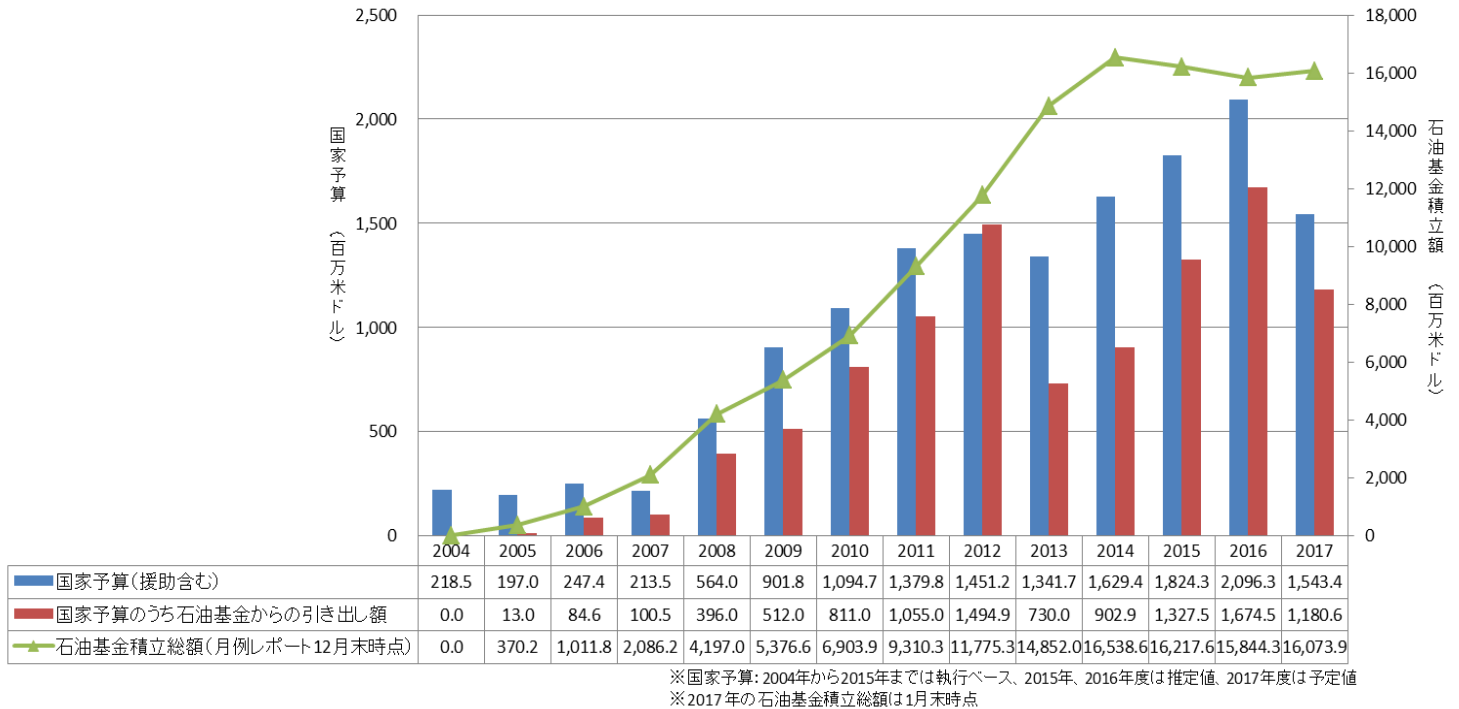
(出典: 東ティモール財務省 Timor-Leste National Accounts 2000 - 2014)

1-2 実質 GDP(非資源セクター)内訳 2005-2013



(出典: 東ティモール財務省)

1-3 石油基金残高と国家予算



(出典: 東ティモール財務省、東ティモール中央銀行)

1-4 GDP, GNI 動向

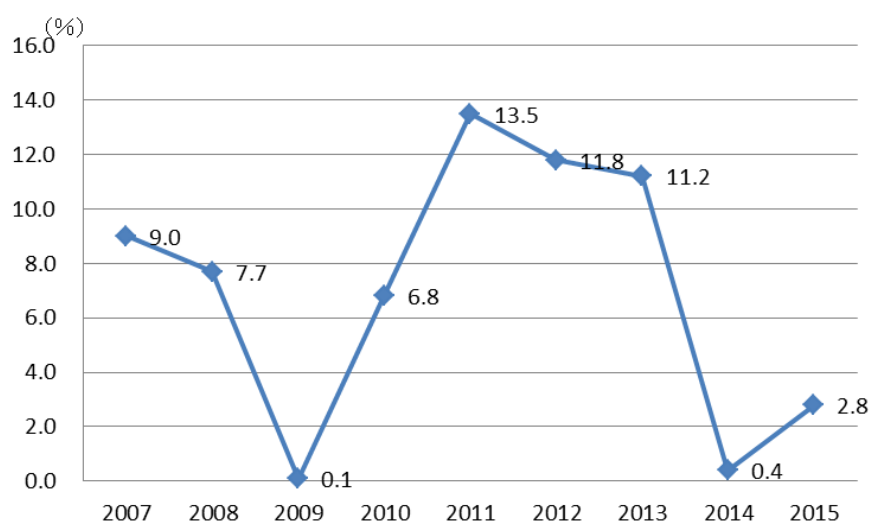
	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
国内総生産 (GDP) (全体) (million US\$)	4,090	4,583	4,275	4,216	4,631	4,890	4,161	4,190	N/A
GDP成長率 (全体) (%)	-0.6	12.1	-6.7	-1.4	9.8	5.6	N/A	N/A	N/A
GDP (資源分野) (million US\$)	3,428	3,827	3,422	3,281	3,559	3,735	N/A	N/A	N/A
GDP成長率 (資源分野) (%)	-2.7	11.6	-10.6	-4.1	8.5	4.9	N/A	N/A	N/A
一人当たりGDP (資源分野) (US\$)				2,908		4,840	N/A	N/A	N/A
GDP (非資源分野) (million US\$)	559	694	828	943	1,123	1,293	1,312	1,399	1,442
GDP成長率 (非資源分野) (%)	11.4	14.2	13.0	10.4	14.7	5.7	2.8	5.8	4.3
一人当たりGDP (非資源分野) (US\$)	550	672	780	876	1,024	1,125	1,111	1,154	1,157
国民総所得 (GNI) (含: 資源収入) (million US\$)	1,885	3,116	2,475	3,194	4,569	4,529	5,019	3,783	2,708
一人当たりGNI (含: 資源収入) (US\$)	1,850	3,010	2,370	3,000	4,080	3,940	4,250	3,120	2,180
消費者物価指数 (CPI) (%)	9.0	7.7	0.1	6.8	13.5	11.8	11.2	0.4	2.8

(出典: 東ティモール財務省、世界銀行、IMF)

2. 金融政策・インフレ動向

- ・自国通貨を持たず米ドルを採用しているため、独立した金融政策を採用することはできない。
- ・積極的な政府支出、世界的な食料品価格高騰等により 2013 年頃まではインフレが続いていたが、2014 年以降は緩やかなインフレ傾向にある。

2-1 消費者物価指数(CPI)

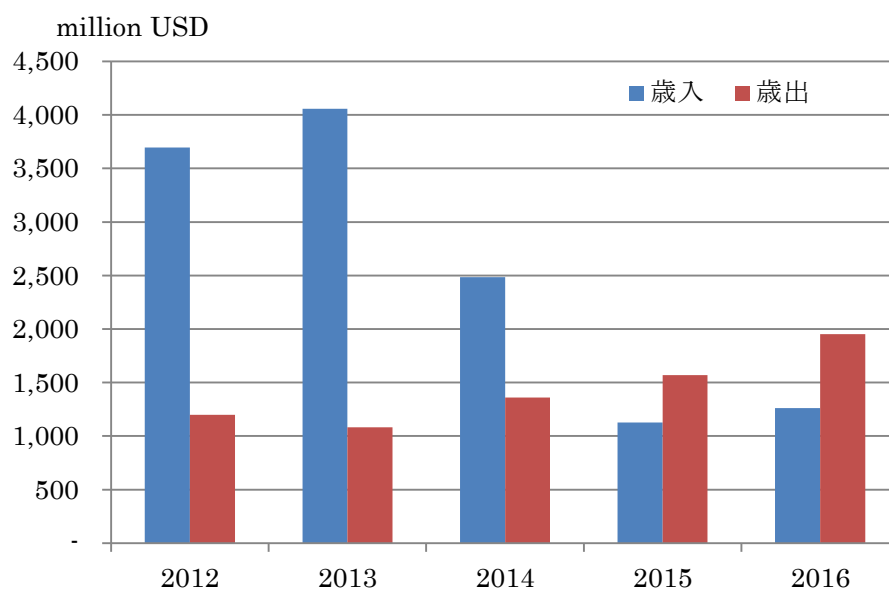


(出典:世界銀行)

3. 財政収支

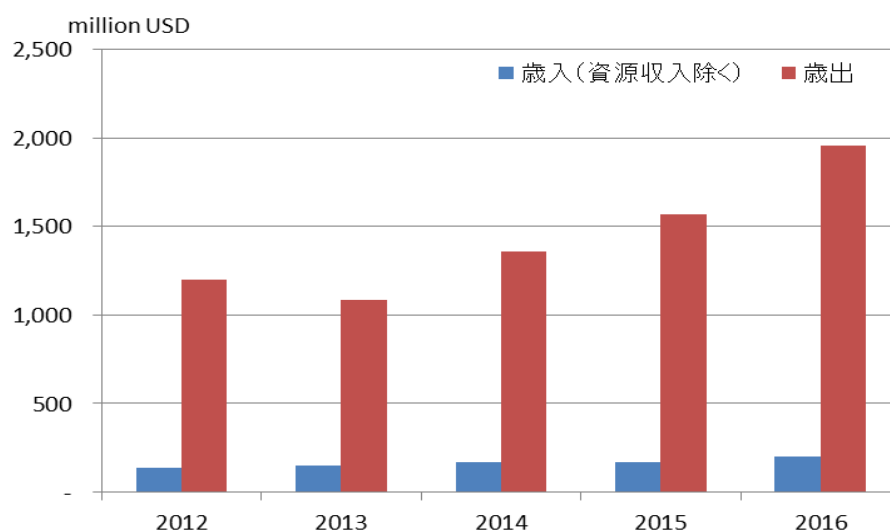
- ・石油価格の低下により、2015 年より歳入と比較して歳出が大きくなっているなか、2018 年以降は歳出の増加が見込まれている。
- ・資源収入が減少傾向にある中、歳入増加のため民間セクター促進による税収の向上及び税収の多様化が目指されており、着実に税収は増加しているが未だ資源収入が歳入の大半占める。

3-1 財政収支(歳入に資源収入を含む)



(出典: 東ティモール財務省)

3-2 財政収支(非資源セクター)

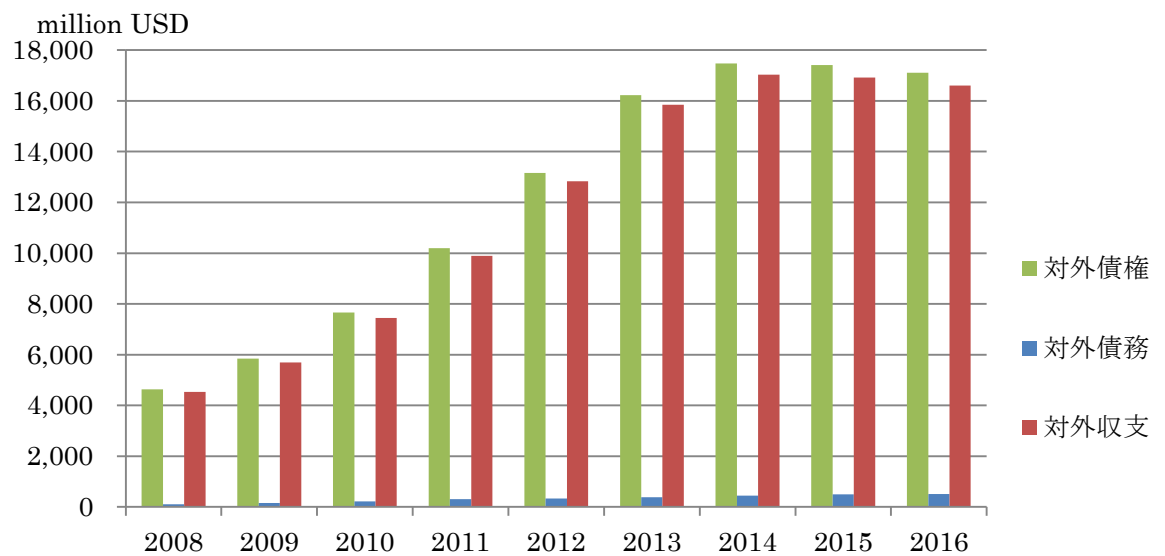


(出典: 東ティモール財務省)

4. 対外債務・債権収支

- ・独立から 2016 年 12 月に至るまで、純債権国を維持している。
- ・2010 年に初めて日本、ADB 及び世界銀行との借款に署名した。

4-1 対外資産負債残高



(出典: 東ティモール中央銀行 International Investment Position)

5. 国際収支

- ・資本財や食料品のほとんどを輸入に頼っており、資源収入を除いた貿易収支は恒常的に赤字となっている。
- ・外国直接投資の多くは、周辺国のインドネシア、豪州、シンガポール等からによるものであり、近年は概ね 30～50 百万ドルの間で投資額は推移している。

5-1 経常収支

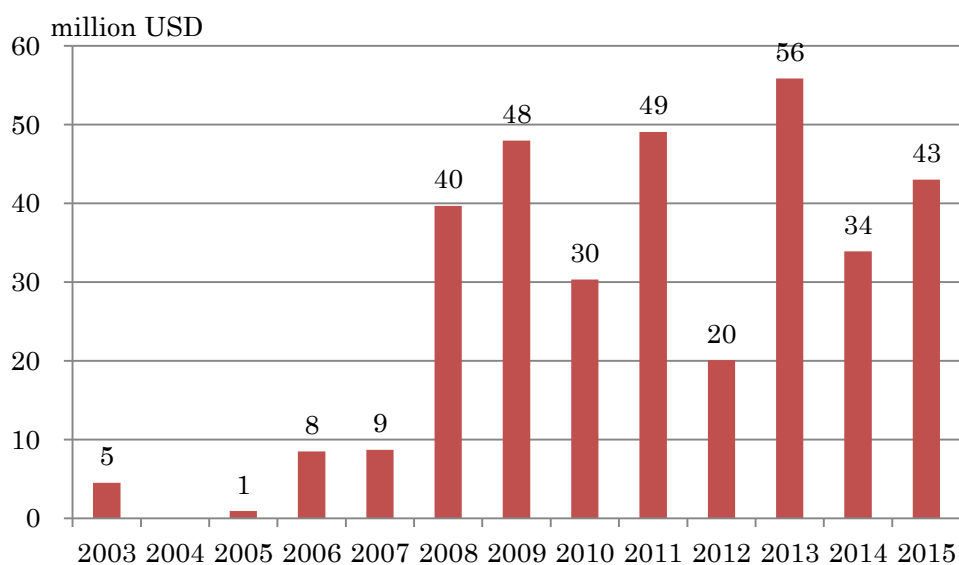
	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
経常収支	1,287	1,678	2,352	2,668	2,224	1,096	431	41
貿易収支	△ 320	△ 280	△ 373	△ 638	△ 676	△ 749	△ 684	△ 710
サービス収支	△ 774	△ 961	△ 1,385	△ 998	△ 581	△ 388	△ 414	△ 486
資源収入	1,692	2,338	3,461	3,960	3,070	2,319	1,281	1,014

2014年は推測値、2015年は速報値、2016年は予測値

(million USD)

(出典:IMF)

5-2 外国直接投資流入額

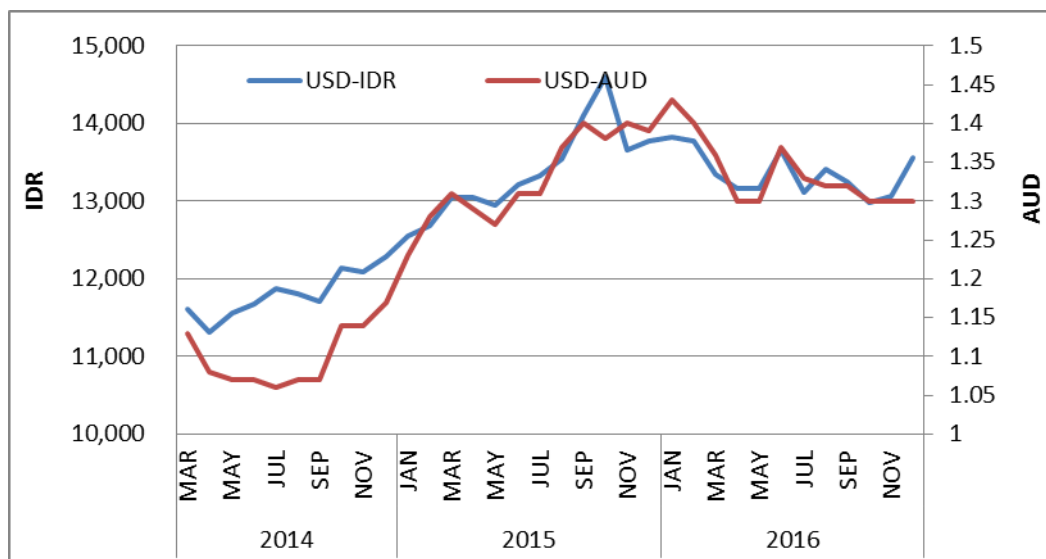


(出典:世界銀行)

6. 為替、外貨準備高

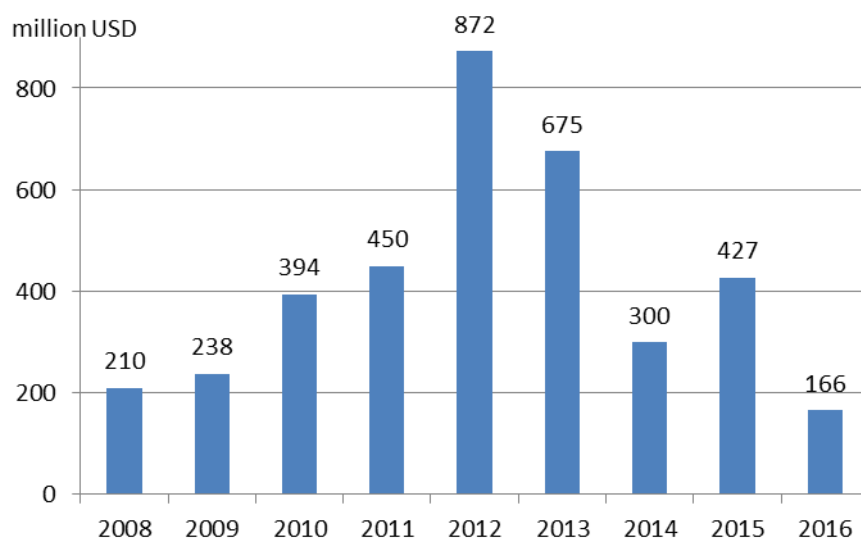
- ・米ドルが使用されており、金融システムは発展途上にある。
- ・2015 年のような米ドル高から落ち着きつつあるものの、輸入過多の当国経済にとっては引き続き有利な状況が続いている。

6-1 為替(米ドル-インドネシア・ルピア/豪州ドル)



(出典:ブルームバーグ)

6-2 外貨準備高



(出典:東ティモール中央銀行)

7. 労働市場

- ・15 歳未満の人口が全体の 41%を占める。
- ・労働参画率が他国と比較しても低い水準にあり、特に女性の参画率の向上が今後の課題となっている。

7-1 労働市場概略(2013 年)

	男	女	計
全人口 (1)+(2)	600,400	577,900	1,178,300
(1) 生産年齢人口(15歳以上)(3)+(4)	353,600	342,600	696,200
(3) 労働力人口 (6)+(8)	140,300	72,900	213,200
(5) 労働参画率 (3)/(1)*100	39.70%	21.30%	30.60%
(6) 被雇用者数	124,500	65,300	189,800
(7) 生産年齢人口に占める被雇用者の割合(6)/(1)*100	35.20%	19.20%	27.30%
(8) 失業者数	15,800	7,600	23,400
(9) 失業率 (8)/(3)*100	11.30%	10.40%	11%
(4) 非労働力人口	213,300	269,700	483,000
(10) 潜在労働力人口	4,300	3,400	7,700
(11) その他非労働力人口			475,300
(12) 自給自足食糧生産者数			178,900
(2) 非生産年齢人口(0-14歳以下)	246,700	235,300	482,000
(13) 従属人口 指数	46.70%	46.30%	46.50%

(出典: 東ティモール雇用政策・職業訓練担当国務長官府)

7-2 平均月収(2013 年, USD)

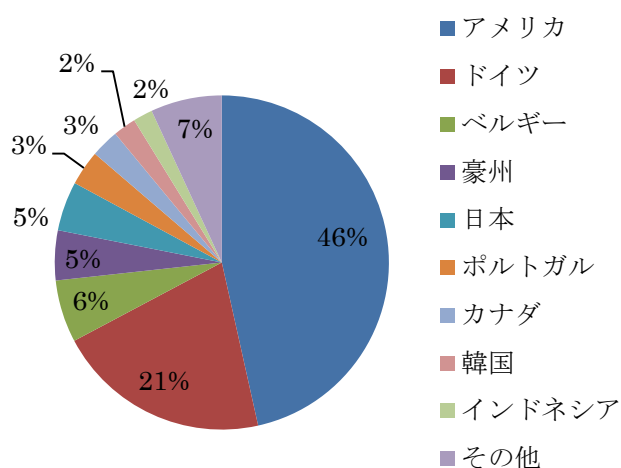
男	女	平均
553.4	461.2	530.8

(出典: 東ティモール雇用政策・職業訓練担当国務長官府)

Ⅱ 日・東ティモール貿易・交流

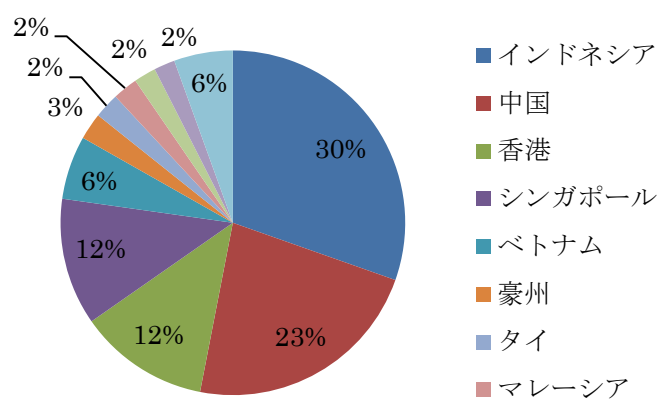
- ・日本は、東ティモールにとって第 12 位の輸入元(2016 年)であり、第 5 位の輸出先(再輸出を含む)(2015 年)である。
- ・東ティモールから日本へのコーヒーの輸出は第 6 位で、全体の約 2.9%を占める(2016 年)。
- ・日本へは資源の輸出も積極的に行われている。
 液化天然ガス(LNG)：日本の LNG 総輸入量の約 3.4%(2014 年)
 LP ガス(LPG)：日本の LPG 総輸入量の約 2.8%(2015 年)

Ⅱ-1 東ティモールの輸出相手国(2015 年)



(出典:東ティモール財務省)

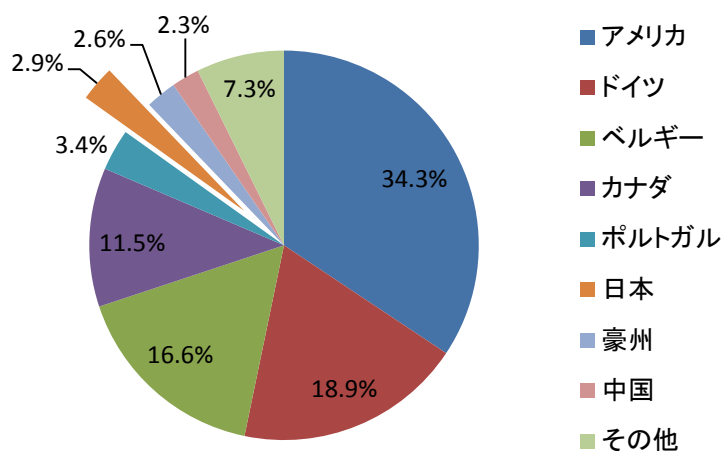
Ⅱ-2 東ティモールの輸入元国(2016 年)



*日本は 12 位で 1%を占める。

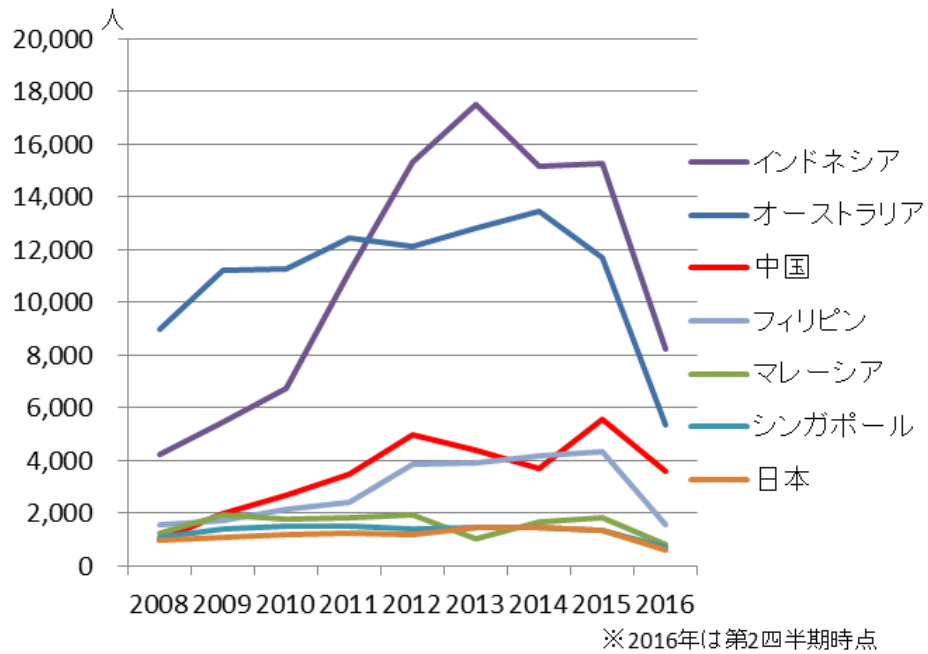
(出典:東ティモール財務省)

Ⅱ-3 コーヒー輸出先(2016 年)



(出典:東ティモール財務省)

Ⅱ-4 東ティモールへの日本人渡航者数推移



(出典: 東ティモール財務省)